



2022年度年末手当会社回答に対する抗議声明発出!

2022年度年末手当会社回答に対する抗議声明

J R 東労組横浜地本青年部は、J R 東労組申 6 号「2022 年度年末手当等に関する申し入れ」以降、「変革 2027」に基づく各種施策によって日まぐるしく仕事が変わる中での労働実感や、施策の実現に向けて行ってきた努力、物価上昇による厳しい生活実感、21 春闘での昇給係数カット、賞与の抑制によるモチベーション低下といった切実な声を本部交渉団とともに会社に突きつけ、満額回答を強く求めてきた。しかし J R 東日本会社は、そのような声を無視し、第 2 回四半期決算で黒字を達成したにもかかわらず「先行きが不透明」という曖昧な理由で、2.4 ヶ月 + 2 万円という極めて「低額」かつ、「若手に手厚く」と言いながらも本質は「もっと会社施策に貢献してもらおう」と言わんばかりの理由での 2 万円という回答は、この間、黒字達成のために努力してきた青年部員の苦勞に全く報いることのない極めて不誠実な回答で到底納得できるものではないどころか、黒字達成のための青年部員の努力を否定するものであり、強く抗議する!

今回の回答で、会社は黒字であろうとも、社員がどれだけ努力をしようとも、低額回答に終止する会社の「利益第一主義」の姿勢や、そんなに高い額を払うだけの価値はないと暗に言っているような「社員を大切にしない・期待していない」姿勢が改めて鮮明になった。また、第 2 回交渉の中で、役員報酬 10% 自主返納を今も行っているのか聞いたところ、「今は行っていない」という回答であり、かつ「役員と社員は、業績連動報酬など給与の体系が全く異なる。同列で論ずるつもりはない」とし、社員のこれまでの努力や生活実感、労働実感とかけ離れた経営陣の姿勢が明らかとなった。

青年部員のみならず、このような会社の姿勢に否定感を持ち、会社への幻想を打ち破るため、職場の悲痛な声を改めて会社に訴えていくことを強く要請する。そして職場で会社に不満や怒り、否定感を持ちながらも、その声をぶつける場所がなく悩んでいる未加入のみならず、賃上げや手当を出させる要素の一つには組織の力が大切です。今こそ、その怒りの声を武器に、J R 東労組の旗のもとに結集しようではないか!

2022年11月13日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部青年部

これまでの青年部員・社員の奮闘に報いない会社回答に怒り!
今こそ J R 東労組に結集しよう!